

題名	令和8年度あま市給食における食物アレルギー対応検討委員会
日時	令和8年6月24日(水) 午後2時00分～午後2時39分
開催場所	学校給食センター 2階大会議室
出席委員	(学校関係者) 加藤 雄二 (学校関係者) 山田 史歩 (保護者代表) 高田 郁恵 (学校関係者) 加藤 佐知子 (医療関係者) 原 修二 (保育園関係者) 三谷 智美
事務局	(学校教育課) 杉藤 真康 (学校教育課) 堀田 久美子 (学校教育課) 河橋 伸哉
傍聴人	なし
議題	1 あま市立小中学校及び保育園における食物アレルギー等対応者数の状況について別紙① 2 「あま市給食における食物アレルギー対応マニュアル」の改訂について別紙②、③
その他	令和7年度愛知県内のエピペン使用事例及びヒヤリハット報告事例について 別紙④

【開会時刻：午後2時00分】

会議の経過

委員長及び副委員長の選出について

(事務局)

「あま市給食における食物アレルギー対応検討委員会要綱」を説明

(委員)

事務局案ありますか。

(事務局)

委員長には原クリニックの原委員、副委員長には保育園看護師の三谷委員を選出することを提案

(委員)

異議なし

議題

1 あま市立小中学校及び保育園における食物アレルギー等対応者数の状況について

(事務局)

別紙①にて説明

(委員)

異議なし

2 「あま市給食における食物アレルギー対応マニュアル」の改訂について

(事務局)

別紙②、③にて説明

(委員)

異議なし

その他

令和7年度愛知県内のエピペン使用事例及びヒヤリハット報告事例について

(事務局)

別紙④にて説明

(委員)

アナフィラキシーショックは予測不可能な症状です。過去に安全だった食物、薬剤、注射であっても、突然アナフィラキシーショックが発症する可能性があります。実際に、過去に問題がなかった食物や薬剤の使用により、突然アナフィラキシーショックで死亡するケースが多く報告されています。学校や保育園では、食物アレルギーの既往歴に基づいてアレルゲンが除去されていますが、このような予防措置を講じていても、完全な安全保障はありません。

アナフィラキシーショックが発症した場合、唯一の救命手段はアドレナリン注射（エピペン）です。抗アレルギー薬などの他の薬剤では対応できません。さらに、時間が極めて重要であり、様子見をしている間に患者の状態が悪化し、死亡率が上昇してしまいます。

したがって、学校や保育園の先生方は、アナフィラキシーショックが疑われた場合には躊躇なくアドレナリン注射を使用することが重要です。実際にはアナフィラキシーショックでなかった場合でも、アドレナリン注射による健康被害は生じないため、疑いの段階でも躊躇せず速やかに注射することをお願いしたいと思います。

(委員)

アドレナリン注射ですが、処方されていない児童生徒の場合、これは救急車をすぐ呼ぶという感覚でいいでしょうか。

(委員)

いいと思います。現在の体制では、学校に誰でも使えるアドレナリン注射を置くことができません。医療機関でアドレナリン注射を処方されている児童生徒さんしか打つ対応ができません。

(事務局)

事例の中でも、打つのを本人が拒否しているところもありましたが、現場においては、先生方も保育士の方々もこの事例を現場に活かしていただけるような情報提供となったと思います。

【閉会時刻：午後2時39分】